



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2022 2 月号
Vol.132
毎月1回発行(通巻132号)
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目20番5号 S-GATE八丁堀9F TEL.03-3553-2906 http://www.jmmpa.jp/

第5回「医療経営に関する研究助成」2月1日火より公募スタート!

「指定課題研究」「懸賞論文」への挑戦は、自己成長と医療貢献に向けた一大チャンス!

「日本医療経営実践賞」最優秀賞100万円の贈呈を含め、総額1000万円を上限とする本協会の研究助成事業。ホームページ「研究助成アーカイブ」においても、その研究成果は記録・知的財産として顕彰され続ける。医療経営士による医療経営に資する多数の応募・挑戦をお待ちしている。

指定課題は、医療界喫緊の4つの最重要課題から選択

第5回(2022年度)

「医療経営に関する研究助成」における指定課題(表)が決定し、2月1日より公募を開始した。

①については、昨年度と同じテーマだが、デジタル化によるデータ活用、医療現場の効率化と医療の質向上および医療安全の促進、競争戦略としてのイノベーションの推進を図っていくうえで、DXは不可欠なテーマといえよう。

②については、地域医療構想に加え、4月から外来機能報告も動き出す中で改めて医療機関のポジショニングを問うものである。

③については、急務の課

題である働き方改革の問題を生産性の向上という観点からアプローチしてもらおうという狙いがある。

④については、医療経営士の勤務先別人数・割合で最大多数を占める、MR、MSに代表される医薬品製造販売(38%)、医薬品卸(22%)勤務者の方々からの応募を積極的に募るという意味もある。

持続可能・安心安全な医療提供体制の構築に向け

18年度よりスタートした「医療経営に関する研究助成」事業だが、昨今のコロナ禍の影響もあってか、第1回(指定課題「医師・看護師等の働き方改革」)以降、応募数の減少傾向が続いている。

少子超高齢人口減少社会の進展とコロナ禍という内憂外患ともいうべき厳しい状況下で、持続可能で安心安全な医療提供体制を構築し維持していくためには、安定的な経営基盤が必要不可欠である。そのためには、広く英知を募り、医療経営における優れた先進事例・成功事例に学び、それを理論化・実践化していくことが重要である。日頃の実践活動を1つの研究成果としてまとめ上げ、ぜひ世に問うていただきたい。

第二、第三の「懸賞論文」最優秀賞受賞作に期待!

懸賞論文「日本医療経営実践賞」については、第1回、第2回では最優秀賞該当作がなく、優秀賞の授与に止まっていたが、昨年第3回にして初の最優秀賞受賞作が誕生し、医療経営指導士でもある熊谷有祐氏(社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院)に賞金100

万円が贈呈された。優秀賞は、共同執筆者代表として鈴木大輔氏(公益財団法人慈愛会今村総合病院)が2年連続で受賞の栄に浴した。第3回から論文のみならず、事例研究レポート等を含め、形式を問わず内容の優れた研究成果が選考対象となった。指定課題研究と併せ、医療経営士による積極果敢な応募を期待したい。なお、応募要項等の詳細は、本協会ホームページにて必ずご確認いただきたい。

表 第5回(2022年度)指定課題	
①	医療経営におけるDX (デジタル・トランスフォーメーション)
②	医療機関のポジショニング: 機能分化と連携に向けた取り組み
③	医療における生産性の向上
④	医療改革における医薬品企業、医薬品卸売企業の役割

*1・*2: 2021年5月28日時点。「理論と実践」No.41、p.6掲載データより。

第5回(2022年度)「医療経営に関する研究助成」案件募集

助成総額上限
1000万円
医療経営士の
挑戦を求む!

1 懸賞論文「日本医療経営実践賞」 【公募締切】5月11日(当日消印有効)

- 募集内容: 医療経営に関する論文等でテーマは自由とする
※懸賞論文と指定課題研究の両方に応募することは可能だが、指定課題研究と同一テーマで応募することは不可
※研究成果については、論文のほか、事例研究レポート等を含め、形式を問わず内容の優れたものを選考する
- 対象者: 医療経営士および医療経営に携わる個人・グループ
- 賞金金額: 優秀な論文を表彰し、最優秀賞には賞金100万円を授与
- 原稿字数: 12,000字以上20,000字以内
※未発表論文に限る

2 指定課題研究 【公募締切】3月31日

- 募集内容: ①医療経営におけるDX
②医療機関のポジショニング:
機能分化と連携に向けた取り組み
③医療における生産性の向上
④医療改革における医薬品企業、医薬品卸売企業の役割
※①~④いずれか1つの課題を選択。同時応募は不可
- 対象者: 医療経営士および医療経営に携わる個人・グループ
- 助成金額: 1件当たり50万円~250万円を予定(件数未定)
- 研究期間: 原則1年間(2022年6月1日~2023年5月31日)

◎開催レポート

「全国医療経営士 自主研究会連絡会」発足記念イベント

医療経営士のスキルアップ&ネットワーク化を目的に、全国に自主研究会立ち上げのムーブメントを巻き起こそう!

昨年9月1日(水)、全国11の自主研究会が一致協力し、「全国医療経営士 自主研究会連絡会」を結成。その発足を記念したイベントが1月26日(水)にオンライン開催された。自主研究会の立ち上げに関する相談窓口・受け皿としての役割・機能を担うとともに、全国47都道府県に自主研究会設立のムーブメントを巻き起こそうというものである。

**独自の活動で存在感を示す
自主研究会が連携協力へ!**

2014年4月に誕生した神奈川研究会を皮切りに、以降それぞれの地域性を反映した自主研究会が各地に誕生し、現在では全国11の自主研究会(表1)が協会支部との連携等を図りながら、独自の活動を展開している。

コロナ禍の影響もあって、研究会のオンライン化が進むと、医療経営士のネットワークの広がりには都道府県を越えて拡大。自主研究会同士で合同研究会を開催する例も見られ、『理論と実践』41号の自主研究会代表者による座談会を契機に、昨年9月1日(水)、11の自主研究会が一致協力する形で「全国医療経営士 自主研究会連絡会」(以下「連絡会」)が誕生した。

**志ある方は、連絡会の扉を
まずは叩いてみてほしい!**

その発足を記念し、1月26日(水)、「自主研究会の始め方、続け方」医療経営士のムーブメントを巻き起こそう」をテーマに、ZOOM配信によるオンラインイベントが開催され、医療経営士限定で96人の方々が参加された。イベントのプログラムは

表1 「全国医療経営士 自主研究会連絡会」組織表

全国医療経営士 自主研究会連絡会(2021年9月1日発足)
代表: 網代祐介氏 副代表: 金城悠貴氏、前田 哲氏

参加自主研究会名	地域	代表者名	発足年
道北医療経営ネットワーク	北海道	平間康宜氏	2018年8月
青森勉強会	青森県	菊地俊輔氏	2020年4月
みやぎ仙台ネットワーク	宮城県	佐竹直也氏	2020年12月
ちば研究会	千葉県	横田泰洋氏	2020年8月
東京研究会	東京都	網代祐介氏	2017年5月
神奈川研究会	神奈川県	金城悠貴氏	2014年4月
静岡県東部医療経営研究会	静岡県	田中賢司氏	2016年3月
岐阜県医療経営研究会	岐阜県	篠田健太郎氏	2019年10月
医療経営士キャリア・イノベーション研究会愛知	愛知県	渡辺 徹氏	2017年3月
関西医療経営勉強会	大阪府	前田 哲氏	2017年4月
医療経営士沖縄県自主勉強会	沖縄県	西尾雅夫氏	2019年12月

表2 発足記念イベント・プログラム

【日時】2022年1月26日(水) 19:00~20:30
【場所】ZOOMによるオンライン配信

1. 連絡会代表挨拶	網代祐介氏 (東京研究会)
2. 活動中の自主研究会の紹介	森 康一氏 (道北医療経営ネットワーク)
3. シンポジウム ——各自主研究会の 目的・工夫等	《司会》前田 哲氏 (関西医療経営勉強会) 金城悠貴氏 (神奈川研究会) 西尾雅夫氏 (医療経営士沖縄県自主勉強会) 平間康宜氏 (道北医療経営ネットワーク) 篠田健太郎氏 (岐阜県医療経営研究会)

表2のとおり。連絡会代表の網代祐介氏による挨拶に続き、事務局の森康一氏が11の自主研究会の特色を4つのカテゴリーに分類したうえで、事務局体制・参加対象者の条件・参加費・累計開催数を一覧にまとめて紹介。シンポジウムでは、前田哲氏の司会進行の下、金城悠貴氏、西尾雅夫氏、平間康宜氏、篠田健太郎氏の4人の自主研究会代表者が、設立に至る動機・目的、立ち上げ時および運営を継続していくうえでの苦労や工夫を、それぞれの実体験

に基づき発表を行った。一口に「自主研究会」と言ってもその実態は様々で、4人の代表者による発表では、開催実績を着実に積み重ねているところもあれば、いざ立ち上げてはみたものの、事務局体制のマンパワー不足が原因で、研究会の継続開催が足踏み状態になっているところもあるなど、各自主研究会のリアルな現状がうかがえた。発表後は、チャットに寄せられた質問を中心にイベント参加者と発表者との間で質疑応答が交わされ、立

ち上げ・運営におけるポイントの深掘りが行われた。また、閉会後には有志によるオンライン懇親会が開催され、地域の枠を超えた親睦・交流が遅くまで続けられた。自主研究会に興味・関心を持ちながら、本イベントに参加できなかった医療経営士の方々に対しては、一定の条件を付け、限定的にイベント動画の録画配信を行う予定だ。詳細については、本協会ホームページほかで改めてお知らせするので、ご確認いただきたい。

日本ヘルスケア経営学院 WEB講座(実践研究講座)

実践
研究!

収益予算のモニタリングと バリエーション対応の基本

好評
配信中!

講座概要



● 講師：
小島勇人氏
(社会福祉法人恩賜財団済生会
横浜市南部病院人事課課長補佐、
人材開発室長、職員健康管理室長/
医療経営士3級)

● 講座内容：①収益予算のモニタリング
②バリエーション分析(差異分析)
③対応と予算修正
④本講座のまとめ

● 講義時間：全64分
● 受講料(税込)：
医療経営士…3,300円
一般…4,400円

日本医療経営実践協会
新理事 泉 並木 氏に聞く
 医療経営士に期待する役割

奉仕型リーダーとして 組織の力を引き出す人材に

2021年12月、新たに当協会の理事にご就任いただいた日本赤十字社武蔵野赤十字病院の泉並木院長に医療経営士の活動に対する期待のメッセージをいただきました。

専門人材を チームとして機能 させることが重要

このたび、当協会の理事を引き受けさせていただきましたことになりました。皆様、よろしくお願いたします。わが国では、少子高齢化の進展により高齢患者の医療ニーズが高まっていることから、地域医療構想に基づいた医療提供体制の再構築が喫緊の課題となっております。世界に誇るべき国民皆保険制度を維持するためにも各病院が地域における自院の機能を明確化し、役



泉 並木 (いずみ・なみき)
 日本赤十字社武蔵野赤十字病院院長/
 一般社団法人日本病院会副会長

割分担と連携による効率化を図っていかねばなりません。

一方、近年はゲノム医療やロボット手術、AI(人工知能)画像診断など医療技術の高度先進化に伴い、人材の専門化が進んでいきます。医師をはじめとする医療従事者は自身がかわる領域・分野は大変熱心に取り組まれますが、専門性に特化するあまり、組織全体の運営に目を向けにくくなっているように感じます。本来、病院経営を活性化させていくためには、医療政策の方向性や病院の方針をよく理解し、部門のスタ

ップをチームとしてまとめることができる人材が不可欠です。病院経営にかかわる職員だけでなく、医師や看護師、薬剤師などの医療従事者が医療経営士の資格を取得されている背景には、そうしたニーズの高まりがあるのだと思います。

トップダウン型 組織では 現場は動かない!

かつての病院は院長のトップダウンで組織が動いていました。しかし、今の時代はそのやり方が通用しません。若い世代の多くは子供の頃から自分の意見を主張することに慣れており、価値観も多様化しています。また、組織運営の課題は相互に絡み合い複雑化しているため、院長一人がマネジメントできる範囲も限られてきています。

私はよく「サーバントマネジメント」という言葉を使っています。サーバントとは使用人、奉仕者という意味です。現場の意見を吸い上げ、病院を下から支えていくような奉仕型のリーダーがいなければ、病院は力を発揮することができないと思っています。院長が頭ごなしに指示を出すよりも自分の意見が反映される

組織のほうが、職員の働きがいやモチベーションは高まります。医療経営士の皆様にはぜひ、奉仕型のリーダーとなって活躍していただきたいと願っています。

人を動かすためには根拠となる数字・データも大切ですが、当院の職員向け掲示板には院長メッセージとあわせて病棟ごとの経営データを掲載するようにしています。データはただ数字を羅列するのではなく折れ線や棒グラフを使ってわかりやすく伝える工夫も必要です。これも最近の若い世代の傾向ですが、偏差値に敏感なため、数字が低いと高めようと努力してくれません。医療従事者は患者さんの病気を治すために、よい医療を提供したいと考えています。そのため、経営人材が経営改善を目的に加算の取得やDPCの係数アップを訴えても協力は得られにくいでしょう。訴えるべきは現場の医療をどのように充実させるか、病院の役割をどのように果たすかです。経営改善はその結果でしかありません。

医療経営士はメッセージの伝え方にも気を配りながら日々の研鑽に努め、組織の力を引き出す存在として成長していただきたいと思います。

当協会後援! サイバー攻撃から病院を守るための対策を学ぶ

医療機関の情報セキュリティ対策

フェイズ・スリーPresents 医療経営セミナー **2022**

セミナー概要(主な講演内容):

- ▶ 医療機関へのサイバー攻撃の対処法と事例
 山本隆一氏(一般財団法人医療情報システム開発センター理事長)
- ▶ 情報セキュリティ対策の現場での取り組みについて(仮)
 ※講師調整中

主催: 株式会社日本医療企画
 形式: オンラインセミナー (Zoom使用予定)
 定員: 200名
 協賛企業: エムオーテックス株式会社
 アルプスシステムインテグレーション株式会社
 株式会社プロット



参加費
無料

38
 火

13:30 → 16:50

事務局掲示板

第35回「医療経営士3級」資格認定試験
2月27日(日)実施、1,255人がエントリー

2月27日(日)に全国13会場で実施する第35回「医療経営士3級」資格認定試験の受験エントリー期間が終了し、1,255人の方がエントリーしました。試験の合格者は3月28日(月)に発表。本紙4月号では試験結果の詳細をレポートする予定です。

医療経営士の皆様へ所属先の掲載ご協力をお願い

本協会のホームページでは、会員の皆様から掲載の同意をいただき、医療経営士が所属する医療機関・企業名を公開しています。

医療機関の抱えるさまざまな経営課題を迅速かつ的確に解決できる能力を有する医療経営士の所属先を公開することで、経営力を持った医療機関であること、医療機関の経営を支援できる人材が所属する企業であることをアピールできます。掲載の同意をいただける方は、下記URLまたはQRコードからご登録ください。

【ご登録はこちらから】

<http://www.jmmpa.jp/support/cat108/>

TOPICS

当協会参与・真野俊樹先生の新刊書籍
『複眼で見る医療経済とイノベーション』が好評発売中

中央大学大学院戦略経営研究科教授で当協会参与の真野俊樹先生が編著を務めた書籍『複眼で見る医療経済とイノベーション』が2月に発刊された。

全5章構成の本書は、真野先生を筆頭に、多摩大学医療・介護ソリューション研究所副所長の石井富美氏ら、医療経済、病院経営、医療用医薬品の専門家6人が執筆し、それぞれの視点から医療経済の現在と未来を考察。行動経済学に基づいた患者サービスのあり方や米国の医療保険制度の変遷、米国・中国における医療イノベーションの最新事情などが盛り込まれており、わが国の医療を再考するうえで示唆に富んだ内容となっている。医療経営士にぜひ読んでいただきたい一冊である。

複眼で見る医療経済とイノベーション

定価2,420円(税込)、144ページ、千倉書房

The Health Economics
and Innovation
from a Variety of Perspectives

真野俊樹 (編)

複眼で見る
医療経済とイノベーション

変わりつつある“医療分野”において、
さまざまな専門家が
“医療経済の現在と未来”を
考察した論考。
多角的かつマクロな視点から俯瞰する。

日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

開催日	開催支部	テーマ	講師
2月15日(火)	北海道	第6回道北医療経営ネットワークWebセミナー 「準備できてますか? 医師の働き方改革~道北地域の現状について」	山口民枝氏(北海道医療勤務環境改善支援センター 医療労務管理アドバイザー) 丸田一貴氏(旭川医科大学病院経営企画課)
2月16日(水)	中国・九州	2022年度診療報酬改定徹底解説セミナー 「自院の戦略策定に役立つ! 個別改定項目を徹底解説」	藤井将志氏(特定医療法人谷田会谷田病院事務長) 株式会社ナリコエンタープライズ
2月17日(木)	関東	第8回ちば研究会「診療放射線技師に教えてもらおう」	占野裕幸氏(診療放射線技師) 児玉直樹氏(日本診療放射線技師会副会長)
	関東	石井先生と語ろう♪ 診療報酬改定カフェ 第4回(全5回)	石井富美氏(多摩大学医療・介護ソリューション研究所副所長)
2月19日(土)	関西	“イチ”からわかる病院経営オンライン塾 第5回(全5回)	古株靖久氏(生命科学修士、経営学修士、医療経営士2級、 介護福祉経営士2級)
2月25日(金)	東北	第8回みやぎ仙台ネットワーク「当院における管理栄養士の 病棟担当制と多職種連携による栄養サポートについて」	鈴木奈緒子氏(医療法人松田会松田病院管理栄養士、栄養経営士)
2月26日(土)	関西	栄養士のためのスキルアップセミナー2022 「地域包括ケアにおける栄養士の役割と食支援」	犬飼道雄氏(岡山済生会総合病院内科主任医長) 伊藤陽子氏(サエラ薬局梅田東店店長)

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。

手術室

Operation Rooms



一般社団法人日本医療経営実践協会 主催

令和4年新春特別講演会

私の仕事術

講師 榊原記念病院副院長 高橋幸宏

参加費 医療経営士(会員)……無料

配信期間

2/28日まで!

WEBオンデマンド配信

たかはし・ゆきひろ ●昭和31年宮崎県生まれ。56年
熊本大学医学部卒業後、心臓外科の世界的権威と呼
ばれた榊原任氏が設立した榊原記念病院への入職
を希望するも、新米はいらないと断られ、熊本の赤
十字病院で2年間初期研修。58年榊原記念病院に研
修医として採用。年間約300例もの心臓血管手術を
行ってきた。著書に『7000人の子の命を救った心臓
外科医が教える仕事の流儀』(致知出版社)。